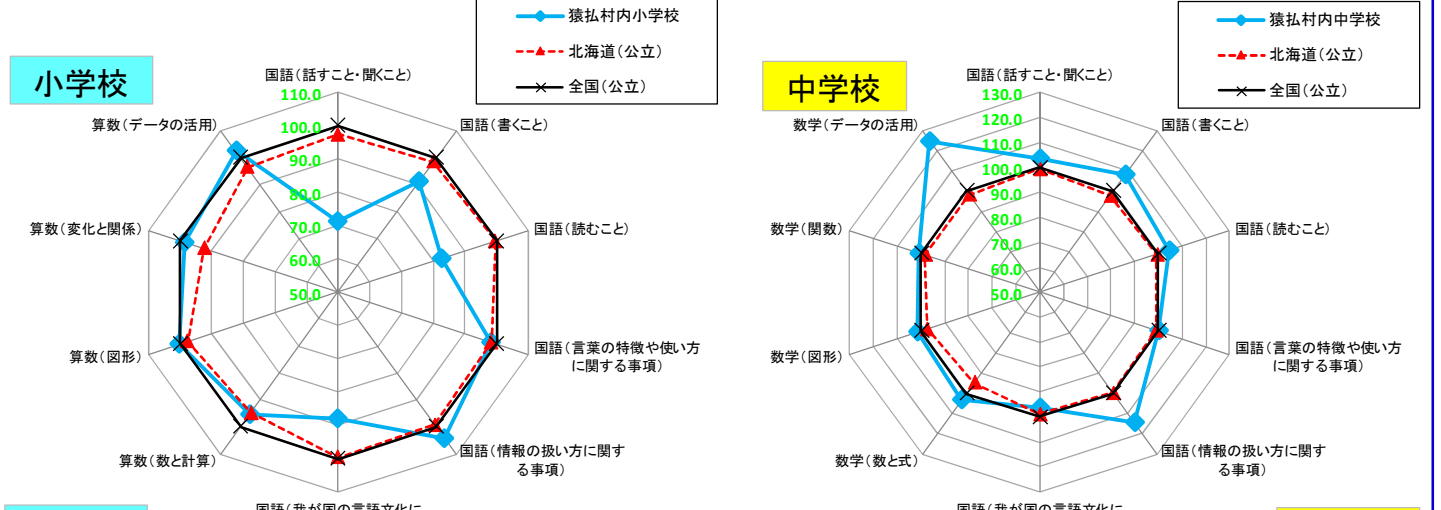


○令和6年度 全国学力・学習状況調査結果について

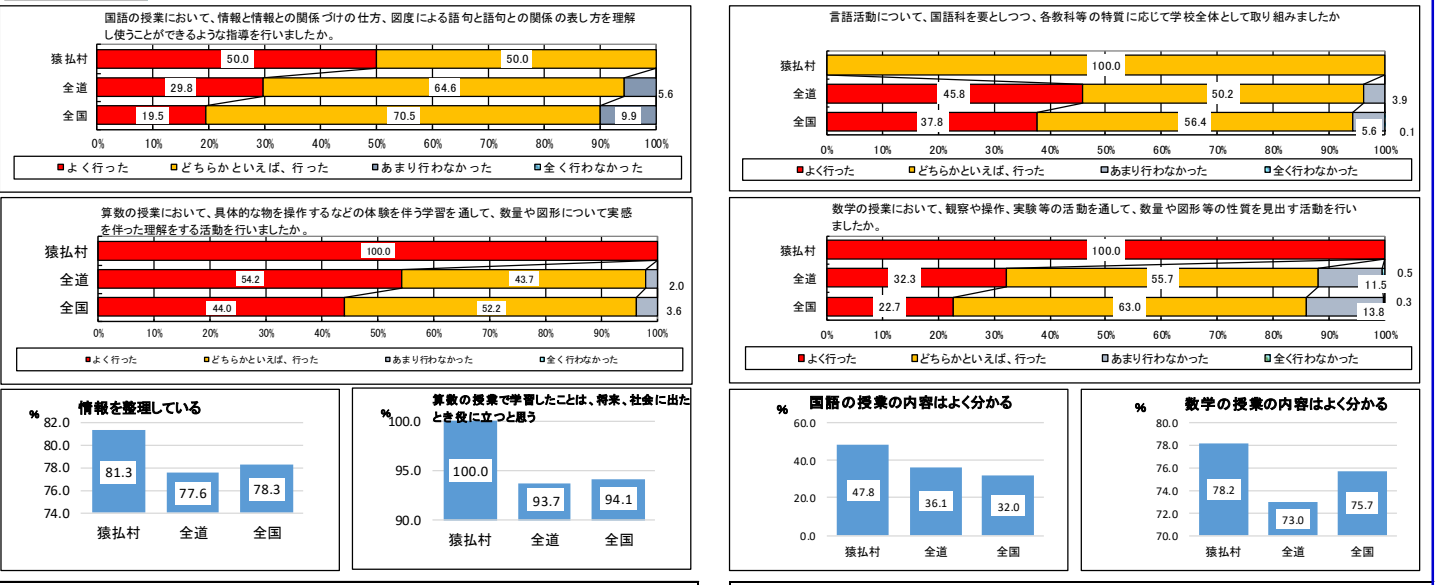
4月18日に行われた小学校6年生、中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査について、猿払村の児童生徒の結果を公表します。今年度は国語・算数（数学）が実施され、猿払村の結果は以下のとおりとなりました。この結果は北海道教育委員会のホームページでも公表されます。

■猿払村内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：32人）（中学校数：1校、生徒数：22人）

【教科全体の状況】教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問調査の状況】



小学校

【上記結果の考えられる要因の分析】

中学校

各学校が国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していると肯定的に回答した児童が全国及び全道を上回るとともに、情報の扱いに関する事項の正答率が、全国及び全道の正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「図形」「データの活用」の領域の平均正答率が、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、全ての領域の平均正答率が、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見出す活動を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全道及び全国を上回るとともに、全ての領域の平均正答率が、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【猿払村の学力向上策】

- ◎ AIドリルなど1人1台端末を基盤としたICTの積極的活用
- ◎ 猿払村教育研究会による授業実践交流や保小中連携の促進
- ◎ 基礎学力向上や家庭学習の定着のための公設塾「未来塾」の運営